

## 令和元年度 第4回江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録（要点筆記）

日 時：令和2年2月10日（月） 14時00分から14時45分

場 所：江別市民会館 32号室

出席委員：澤井秀座長、田口智子座長代理、粕谷堅一郎委員、伊藤留美子委員、  
龍田昌樹委員、小関堂寛委員、吉田岳夫委員、東條大輔委員、  
大鹿琢委員、腰原久郎委員、菊地秀人委員、浦野博之委員（計12名）

オブザーバー：守山英男（石狩振興局地域創生部長）

事務局：企画政策部北川部長、西田次長、政策推進課中島参事、山口主任

傍聴者：0名

### 会議概要

#### 1 開会

#### 2 議事（1）第2期江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略案に対する意見募集結果について

【第2期江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略案に対する意見募集結果について、事務局説明】

【資料1】 第2期江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に対する意見募集の結果と市の考え方

#### 【質疑】

##### ○龍田委員

パブリックコメントの実施に関してどのように周知し募集したのか。

##### ○事務局

パブリックコメントの実施にあたっては、広報えべつ及び江別市のホームページに掲載し周知した。さらに、図書館や公民館などの公共施設12か所のパンフレット置場に配架し、意見を募集した。

##### ○澤井座長

パブリックコメントの提出者は3人だったが、他に実施しているパブリックコメントでもこのくらいの提出人数なのか。

##### ○事務局

他のパブリックコメントを見ると、市民の生活に密着した具体的で関心の高いものは何十人と意見が集まるが、市民の生活に直結しないものは意見がないことや2人から3人の場合が多い。

今回のパブリックコメントでは配架した冊子は減っていたが、実際に意見を提出していただいた人数は3人だった。

##### ○澤井座長

資料を持ち帰るということは関心のある市民はいたが、意見は多くなかったということだと思う。

○龍田委員

ホームページと公共施設に置いただけの形では、行政がパブリックコメントの実施を必要としているのか分からない。市民目線では楽しい内容ではないので、熟読して意見を出していただいたこの3人の意見は貴重である。

パブリックコメントを広く募集することは重要なポイントのひとつなので、もう少し期間を長くするなど、より意見が集まるよう検討していただきたい。

○事務局

龍田委員の意見のとおり、パブリックコメントの進め方について様々な議論があるので、全庁的な取組の中で工夫し、市民の関心が高まるよう検討したい。

議事（2）第2期江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略における各指標の目標値について  
【第2期江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略における各指標の目標値について、事務局説明】

資料2 第2期江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略における各指標の目標値（基本目標1及び2該当分）

○田口座長代理

基本目標2の江別ファン登録者の主な対象は学生になると思うが、登録のみを促す事業なのか、それとも、イベントなどの企画とリンクした上で魅力を感じる事業を実施していくのか。

○事務局

基本的には江別市の地域活動に参加し、登録していただくことになると思うが、地域活動に参加せずとも登録できる仕組みを構築したいと考えている。

島根県松江市でも類似の事業を既に実施しており、市内の大学生に限らず、松江市出身者がファンクラブに登録して、定期的にイベントや特産品の情報を発信し、転出している場合でも地域との絆をつなぎとめている。

江別市でもこの取組を展開することにより、大学生が卒業後も江別市とつながりを持ち続ける仕組みを作りたいと考えている。

○田口座長代理

事業の内容についてを議論する場ではないことは理解しているが、インターンシップや就職活動等と連携することで、より江別市を理解して深い関係が出来るのではないかと。

○事務局

次年度から事業を開始するにあたり、田口座長代理の意見を参考に事業を進めていきたい。

○浦野委員

「海外から稼ぐ」地方創生ということで、海外のバイヤーを招へいた商談会と記載しているが、具体的にどこの国や都市をターゲットに考えているのか。

○事務局

シンガポールなどの東南アジアをターゲットに考えている。北海道のアンテナショップがシンガポールにあり、毎年北海道の商品をPRするフェアが開催されているので、そこに参加することによって販路を開拓する取組を行っている。来年度以降も事業の拡大を図り、市

内企業商品の海外輸出により、海外から稼ぐ取組を進めたいと思っている。

○澤井座長

基本目標 1 の市内インターンシップ等への参加学生数の基準値（平成 30 年度）の数値が記載されていないが理由はあるのか。

○事務局

以前は有給インターンシップ事業などを行っていたが、この指標は無給でのインターンシップの参加学生数を考えている。これまでの事業の形態と大きく異なってくることから、単純な比較が難しく、基準値は空欄としている。

【第 2 期江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略における各指標の目標値について、事務局説明】

資料 2 第 2 期江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略における各指標の目標値（基本目標 3 及び 4 該当分）

○田口座長代理

基本目標 3 の江別市就労支援プログラム事業により就業できた人数と基本目標 2 の市内インターンシップに関連して、求職者への面接指導を行うと説明があったが、そのほかにも受入先の企業への指導についても考慮することが必要だと思う。

市内インターンシップについても、これまで有給であったものが無給になるので、受け入れる企業側の環境づくりも重要であると思う。

○事務局

江別市就労支援プログラム事業については、江別市のザ・ビッグのテナントを一部借りてハローワークと連携しながら就業を希望する女性や高齢者をターゲットに就労を支援する。

江別市と人口規模が同様である岩手県奥州市で類似の事業を実施しており、毎年 100 名程度の方が市内企業へ就職している実績もある。現在、介護分野は人材不足が課題となっているが、介護については資格が必要になるので、資格の取得支援を進めるなど、個人の職業能力を高める取組を進めていきたい。

インターンシップについては、市内企業の採用手法や働き方について研修会を行いたいと考えている。

議事（3）その他

【質疑なし】

3 その他

【質疑なし】

4 閉会